



2025 年度理事長所信

一般社団法人中津川青年会議所
第71代理事長 鈴木 佑将

One for all, All for one

～今だからこそ未来のまちのために～

～はじめに～

1990年代にインターネットが世界規模で急速に普及し、そこから現在にかけて、社会は大きく変化しました。今では、スマートフォンがあれば世界中の誰とでも繋がることができるだけでなく、買い物や仕事、娯楽を楽しめることができ、まさに情報化社会の真っ只中であると言えます。しかし利便性が向上する反面、生活に於いて人と人が直接関わり合うことが減少したことにより、自身の生活に於いての他者という存在の尊さが欠如し、我々は「他者を思いやる心」を失いつつあるのではないのでしょうか。

これまでの日本も、多くの混乱がありました。しかし、先人たちはその度、困難を前に想いを一つに立ち上がり、多くの問題や課題に対し立ち向かうことで困難を乗り越えてきました。今よりもっと不便な状況の中で、心に描くまちや里山の景色、そこに住み暮らす人々の顔を思い浮かべながら、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、苦しい時には皆で助け合い、知恵を出し合い協力し、今と未来を生きる誰かのために想いを一つにして力を合わせてきたからこそ、今の私たちがあります。先行き不透明な時代だからこそ、私たちの行動を今一度見直し、本来の思いやりの心に立ち返る必要があります。そして、想いを一つにすることで、どんな困難にも立ち向かえる大きく揺るぎない力を生み出すことができます。

私は、この精神を青年会議所で学びました。困難な道を選択し続けると辛く苦しい時もあります。目の前に立ち塞がる大きな壁を前に逃げ出したくなる時も訪れるかもしれません。それでも、あなたの周りには無償の愛を持って、あなたと共に歩みを進めてくれる仲間がいます。私はそのことを、この青年会議所という組織に所属して知りました。手を差し伸べ背中をおしてくれる仲間がいる。共に思いやりの心をもって成長しこのまちの発展のために行動して参りましょう。

そして、私たちが昨年掲げた「未来ビジョン2024」の目標を基に、メンバーの想いを一つにして取り組むことで、我々は市民や団体を明るい未来に導けるリーダーとなり、我々が人と人との想いを繋ぐことで、

このまちを「ONE TEAM」に導いていけると信じています。今だからこそ未来のまちのために。

～魅力と活気が溢れる中津川を目指して～

日本全体、そして中津川市に於いても、少子高齢化と人口減少は深刻な問題となっており、特に2050年には中津川市の人口が約5万人にまで減少すると予測されています。この急速な人口減少と高齢化により、地域の担い手不足によるコミュニティの共助機能の低下や、住民の地域活動への参画意識が低下しているのが現状です。新たな時代を生き抜く強い地域を創るのは、地域の人の力が必要不可欠であることから、住民が地域活動に能動的に参画し、まちを愛し誇りを持って地域創生に向けて取り組まなければなりません。だからこそ、私たちがまず取り組むべき最も重要なことは、「未来ビジョン2024」に基づいた、ひとづくりです。中津川への誇りと愛着を育み、地域社会が直面する現状を正しく見つめ、行政や各種団体と連携を図り、地域住民が地域資源の価値を深く理解し、一人ひとりがまちづくりを自分事として捉え、まちへの関心を高める中で郷土愛を育んでいかなければなりません。人が育てばまちは必ず成長し、未来を創る人たちがより多くの共感の輪を生み出すことで持続可能なまちづくりが実現されます。そして、自身が住み暮らすまちづくりを誰かがやってくれることを待つのではなく、自らが先頭に立ち、自分自身が地域の魅力の一つとならなければなりません。地域に目を向け、地域の課題解決に当事者として取り組む人財が一人でも多くなることで、地域のブランド価値は高まり、まちは活性化し、唯一無二の魅力を持つ中津川市が築かれます。さらに、中津川市に住み暮らす全ての人と共に手を取り合い、共通の目的に向かって協力することで、まちは一層豊かになり、地域の魅力は未来へと確実に受け継がれていくと信じています。

私たちは、この困難な時代に於いても、中津川の魅力を守り、未来へ繋げるために、大きな一歩を踏み出さなければなりません。私たち青年会議所も、まちの未来を見据え、地域全体の活力を維持し、次の世代に魅力と活気があふれる中津川を引き継ぐために行動を起こして参りましょう。

～愛され続ける歴史あるおいでん祭を目指して～

中津川夏まつりおいでん祭は、人と人、地域と地域を結び、中津川市の夏の風物詩として多くの人々に親しまれ、今年で39回目の開催となります。おいでん祭を通じて、人々は地域の歴史や文化に触れ、地域の魅力を感じ、絆を深めることができます。これまで青年会議所の先輩諸兄姉も、活動を通じて新たな魅力を創出し、おいでん祭は進化し続けてきました。だからこそ、私たちも、ふるさとのまつりとして愛されるおいでん祭をより良いまつりへと盛り上げ、次代へ繋げていくことが大切です。

近年のおいでん祭では、コロナ禍を乗り越え、ようやく本来の活気を取り戻してきました。しかし、設営や運営に関わっていただいている方たちの減少や、演者として参加いただいている方々の高齢化、更には、

物価の高騰や、気温の上昇など様々な問題を抱えています。それに加え、設営や運営に関わる青年会議所メンバーも減少しており、目指すべき祭りである、市民が安心して楽しめ、演者が安全に参加できるおいでん祭の開催が危ぶまれています。だからこそ、これまで以上に私たちが設営面、運営面に於ける意味合いや手法を改めて見直し、一つ一つの課題に向き合い、関係団体と共に知恵を出し合って解決していくことが重要です。そのためには、我々と関係団体が安心安全なおいでん祭を開催するという想いを一つに、青年会議所、行政、演者、地域の方々が共に手を取り合い、知恵を出し合い、誰もが楽しめるおいでん祭の開催を目指して参りましょう。そうすることで、誰もが輝くふるさとのおまつりとして、更に愛され続けると信じています。

～伝統と革新の先にある魅力ある組織を目指して～

中津川青年会議所は、「明るい豊かな社会の実現」のために想いをもって、時代に即した組織の変化や、先駆けた運動を展開してこられ、昨年70周年の節目を迎えました。その長い歴史の中で、関係各所からの信頼を積み上げてこられたからこそ、今日の中津川青年会議所があります。これは、時代が移り変わる中でも、受け継がれてきた規律や礼節を重んじ、仲間と共に英知と勇気と情熱をもって、まちの明るい未来を想い行動してこられた、先輩諸兄姉の姿があったからです。

現在の中津川青年会議所は、在籍年数の長いメンバーが卒業し、入会して数年の多様な価値観をもった若手メンバーが大半となったことで、組織の資質が変わっていく重要な分岐点を迎えています。組織は、規律や礼節を見られ判断され、その伝統こそが組織の深みとなります。だからこそ、これまで大切に受け継がれてきた規律や礼節、伝統の存在意義を再認識した上で、想いを共有し認め合うことが重要です。そして、メンバー同士が互いに思いやりの心を持ち、まちや人に対して行動を起こす者として、地域から必要とされる団体となり、更なる信頼を得ることが必要です。そうすることで、社会により良い影響を与え、魅力ある組織へと成長できると信じています。

～おわりに～

私は本年度、メンバーに青年会議所活動のみならず、様々なことに全力で挑戦していただきたい。挑戦することで成功することもあるでしょう。時には失敗することもあるでしょう。しかし、大切なのは結果ではなく経験ではないでしょうか。そして、その経験は全力で挑戦し取り組んでいるからこそ、人生の糧となります。そしてそれは自身が想い描く未来の大切なピースであり、その一つ一つが成功への道しるべとなるでしょう。私は、メンバーが全力で挑戦することを誰よりも支え、共に向き合い、共に挑戦し続けます。

「一人は全員のために、全員は一つの目的のために」

この言葉を胸に刻み、共に中津川市を「明るい豊かな社会」に導いて参りましょう。

<運営方針>

- ・思いやりをもった行動
- ・伝統を重んじ、革新を目指すLOM運営

<運動方針>

- ・魅力を次代へ繋ぐまちづくり運動